

「経カテーテル的大動脈弁留置術術後の弁周囲逆流変化の予測と弁周囲逆流変化と溶血との関連の検討」研究について

◆研究の目的と概要◆

重度大動脈弁狭窄症に対して経カテーテル的大動脈弁留置術は有用ですが、術後の弁周囲逆流の残存と変化や溶血は経カテーテル的大動脈弁留置術の一つの課題です。本研究では経カテーテル的大動脈弁留置術の弁周囲逆流変化の予測と溶血との関連について検討を行い、今後のよりよい診療を行うことを目的としています。

◆対象となる患者さん◆

2020 年 1 月から、2024 年 10 月までの間に、当院で重度大動脈弁狭窄症に対してバルーン拡張型人工弁を用いて経カテーテル的大動脈弁留置術を行った方。

◆研究に使用される情報・試料◆

- ① 患者さんの背景情報（年齢、性別、病歴、診断名、治療歴、身長、体重、BMI、NYHA、Clinical frailty scale、合併症、既往歴）
- ② 血液学的検査、血液生化学的検査（LDH、ALP、ALT、AST、ビリルビン、尿酸、ヘモグロビン、クレアチニン、eGFR）
- ③ 心電図検査
- ④ 心臓超音波検査
- ⑤ 造影 CT 検査
- ⑥ 服薬データ
- ⑦ 手術中データ
- ⑧ 手術後の血液学的検査、血液生化学的検査や心臓超音波検査

◆試料・情報の研究利用開始日◆

2025 年 6 月 1 日以降

◆研究方法◆

本研究は過去の診療録（カルテ）等からの情報や諸検査の結果を利用します。

---

\* 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。

＊ 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承ください。ただし、解析中または、既に学会等で発表されたデータについては、削除できないことがありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

循環器内科 研究責任者 生田 旭宏

E-mail： kenkyu★kchnet.or.jp（臨床研究センター）

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって当該既存試料を用いなければ研究の実施が困難であるとの理由が認められ、倫理的観点及び科学的観点から実施についての承認、また当院院長の許可が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法  
（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明